



乾杯

芙蓉会会長

守屋 敏道

みなさん、こんばんは。ご紹介いただきました芙蓉会会長をしております守屋でございます。特技懇親会の乾杯の音頭を取るようご指名をいただきまして、誠に光栄に存じております。

まずは71名の新たに特許庁に入られました新人の皆様、これから多くのことを学んで、自己研鑽され、特許庁の中核であります審査官として、ますますご活躍されることを期待しております。どうぞよろしく願いいたします。

それから、特許庁におかれましては、今、総務部長、特許技監からお話いただきましたように、色々な課題に取り組まれているということでございます。その中心となって、特技懇の会員の皆様方がますますのご活躍をされているということで、心強く、頼もしく思っている次第であります。

今、総務部長のお話にありましたように、第4次産業革命の中でAIやIoTなど、色々な新しい技術が使われており、その特許審査、あるいはその技術の特許行政での活用が急がれているとのことです。そういった難しい課題にこれから取り組まれることに敬意を表します。

それからもう一つ、お隣の中国では、先ほど総務部長のご挨拶にもありましたようにAIやIoT、また二次電池、そういったものに関連する出願が大変増えております。私は今日調べてきたのですが、すでにこの半年で中国の特許出願が75万件に達しました。それから実用新案が102万件、意匠が32万件。これは2、3日前に出た中国特許庁の速報です。もう全体で200万件を超えています。今年いっぱい400万件に達するのではないかという事態であります。

このような状況の中で、中国の出願の数は日本がどうこうできる問題ではないのですが、中国での権利設定や権利のエンフォースメントはグローバルスタンダードでやっていただくことがよいことだと思います。ぜひ特技懇の審査・審判官の皆様方には、特許、あるいは意匠の審査・審判をグローバルスタンダードでしていただいて、そのスタンダードを早く中国をはじめ新興国に広めていただきたいと思います。我々OBの弁理士にとりましても、JPOの審査・審判に鍛えられますから、よい勉強になります。それから日本企業にとっても、JPOで特許になれば、特許を世界中で取得できていくということになるので、非常によいのではないのでしょうか。一石二鳥、三鳥のような効果が出てくるだろうと思いますので、特技懇の皆様方にはぜひグローバルスタンダードで審査・審判をしていただくことをお願いしまして、乾杯に移らせていただきたいと思います。

それでは、特許庁と特技懇の益々のご発展と、今日ご参加いただきました方々のご健勝を祈念いたしまして、乾杯したいと思います。

ご唱和ください。乾杯。

